AMCoR
Asahikawa Medical College Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

日本臨床麻酔学会誌（2006.01）２６巻６号:S143.

女性麻酔科医だからできること 女性麻酔科医師だからできる優しい小児麻酔

間宮敬子

女性麻酔科医師だからできる優しい小児麻酔

旭川医科大学麻酔科蘇生科
間宮敬子

小学生の時、虫垂炎の手術を受けた。脊椎麻酔後のしびれる感覚、手術室の凛とした空気は今でも鮮烈に私の記憶に残っている。期せずして麻酔科医になり、小児麻酔が好きになった。ある時、我が息子に麻酔をかける機会があった。局所麻酔予定の舌小帯形成手術であったが、息子は恐怖で開口することができず、手術室へ移動させて全身麻酔下での手術となった。暴れる子供を無理におさえ、静脈ルートを確保し、麻酔をかけた。術後息子は、私の仕事はすばらしいと思うが、むりやり寝かせるのは納得がいかないと訴えた。それ以来、私は簡単で侵襲が少なく優しい前投薬を探し続けている。肢体不自由児の施設ではミダゾラムキャンディや経鼻ミダゾラム投与法を導入し小児脳性麻痺患者への麻酔の一助とした。また一方で、親だけではなく、患児に対しても理解しやすい術前の説明（インフォームドコンセント）をきちんと行うようになった。

女性医師は精神面、肉体面の双方から小児麻酔に適していると思われる。私たちには母性があり、細かいところまで配慮できる才能がある。育児を経験することは、新生児や小児患者の扱いに慣れ、小児患者のこころを理解する助けとなる。また肉体面では、男性医師に比較し手が小さく、器用で、小さな患者の体を容易にまたやさしく扱うことができる（はずである）。「好きこそものの上手なれ」という言葉があるが、どれほどの女性麻酔科医師が他の麻酔に比較し、小児麻酔が好きかアンケートをとり、その結果を集計する。また、小児麻酔において女性医師に対する患者側のニーズはどれほどのものなのかのアンケートも行い集計する。

我々女性麻酔科医師が目指す理想的な小児麻酔とはどんな麻酔なのであろうか。男性医師に追いつけ、追い越せではなく、私たちだからできる、やさしい小児麻酔を追い求めて日々努力していきたい。